

□ 日本文教出版 令和2年度版「わたしと せいかつ」上巻を活用した6月始まりの年間活動計画案(簡略版)

■留意事項

①基本的な感染症対策の実施

感染症対策のポイントは、「感染源を絶つこと」「感染経路を絶つこと」「抵抗力を高めること」であることを踏まえ、以下のような取組を行うこと。

1) 感染源を絶つこと

次の方法により、発熱等の風邪の症状がみられる児童生徒等については、自宅で休養させることを徹底すること。教職員についても同様の対応とすること。

◎ 家庭と連携した毎朝の検温及び風邪症状の確認◎ 登校前に確認できなかった児童生徒等については、保健室等での検温及び風邪症状の確認

2) 感染経路を絶つこと

手洗いや咳エチケットを徹底する。

②集団感染のリスクへの対応

① 換気の悪い密閉空間にしないための換気の徹底

② 多くの人手の届く距離に集まらないための配慮

③ 近距離での会話や大声での発声をできるだけ控える

など、保健管理や環境衛生を良好に保つような取組を進めていくことが重要であるとされている。

文部科学省[新型コロナウイルス感染症に対応した学校再開ガイドライン]より一部抜粋

https://www.mext.go.jp/content/20200406-mxt_kouhou01-000006156_1.pdf

月	単元名	関連する主な内容	配当時数例	4月始まりの標準的な時数	単元目標	感染防止策を踏まえた手立て
4月						
5月						
6月	〇いちねんせいになったら	(1)(8)	8	8+α	・初めての学校生活で、先生や友だちと関わりながら、施設や生活のしかた、登下校に慣れ、安心して楽しく生活できるようになる。	・両手を広げて当たらない距離を基本として活動できるよう習慣化させる。 ・手洗いや声のボリュームなどスタートカリキュラムと関連付けて学校再開当初に習慣化させておく。 ・手をつないだり、体に触れたり、ボール遊びなどを介して同じものを触れることなど状況に応じて接触の可能性を避ける。
6月～7月	〇がっこうをたんけんしよう	(1)(8)	8+α	10+α	・学校を探検する活動を通して、たくさんの人もの・こととの出会い、関わりを繰り返していく中で、学校を支えている施設や設備、人、友だちのことがわかり、楽しく安心して遊びや生活ができることともに、6年間の小学校での学びについて考え、見通しをもったり、希望をもったりして、学校での自分の生活を豊かに広げようとする。	・整列のしかたは、両手を広げて当たらない距離を基にさせておき、クラスやグループでまわる場合もその原則に基づき活動させる。 ・話し合いをするときは机はそのままにして体だけ班の中心に向けて話し合うように指示する。 ・発表や交流については、言葉だけでなく、ホワイトボードなどを使って絵による補助的な資料も作らせることで理解を進める。 ・全体の場での発表の時は、マイク(卓上型)をつかって大きな声で話さなくてよいように場の設定を行う。
7月～9月	〇きせつとあそぼうーはるからなつー	(4)(5)(6)(8)	3+α	14+α	・年間を通して身近な自然にふれながら、身体全体を使って遊んだり、自然を使って工夫して遊んだりする。 ・活動を通して自然の不思議さ、季節の変化に気づき、遊びや生活を楽しもうとする。	・観察をメインに置き、遊びについては接触しないような遊びを紹介したり、一人で遊べるあそびを伝えたりする。 ・ペアやグループでの活動においても両手を広げた距離を意識させる。 ・体験したことを表現する場合は、スペースを設定し、教員が様子を見ながら活動させる。
	〇きせつとあそぼうーはるからなつー	(4)(5)(6)(8)	9+α			
9月～12月	〇生きものとなかよくなろう	(7)(8)	6	6	・身近な生き物を探したり観察したりしながら、その特徴に気付くことができる。 ・生き物に親しみをもち、大切にしようとする。	・生き物がいるような場所を子どもたちに予想させ、いくつかの場所を決め、少人数で最終活動を行う。 ・虫を飼育する場合は、ペットボトルなどを活用し、一人ひとりずつ観察できるようにする。 ・全体で発表する場合はマイクを活用する。
	〇きれいなはなをさかせたい	(7)(8)	12+α	14+α	・自分で決めた植物を種から育てることで、植物への思いをもって世話をすることができるようにする。 ・植物の変化や成長の様子に気付くとともに、生命の不思議さにふれ、植物も自分たちと同じように命をもって成長していることに気づき、親しみをもち大切にしようとする。	・時期に合わせていくつかの種を子どもに提示する。 ・種まきの時は場所を設定し、近づきすぎないようにする。 ・種まき後は、植木鉢と植木鉢の間を十分に開けて設置し、観察をする際に適切な距離を保つことができるようにする。
	〇きせつとあそぼうーあきー	(4)(5)(6)(8)	12+α	14+α	・身近な秋の自然の中で遊んだり、身体全体を使って自然とふれあったりする活動を通して、自然の材料を使った遊びを考えたり遊び方を工夫したりすることなどから季節の変化や特徴、自然の不思議さに気づき、遊びや自身の生活を楽しむことができる。	・交流には模造紙や付箋などを使い、掲示したものを個別で見に行ったりコーナーを設置し、ローテーションでまわるなど、少人数で活動する。 ・体の向きだけをかけ、距離を保つ。 ・招待する対象、人数、場所、時間などについて教員が事前に調整しておく。
12月～3月	じぶんでできるよ(2)(3)	(4)(5)(6)(8)	8	10	・家庭における自分や家族の生活について考えることで、家庭での生活は互いに助け合うことで成立していることに気づき、自分にできることを実行したり、規則正しく健康に気をつけて生活したりしようとする。	・インタビューの対象は保護者、同居人などに限定する。 ・話し合いは体の方向を変えて伝え合う。 ・全体での交流の時はマイクを活用する。 ・コーナーを設置し、実演するときはフラフープやテープで線を引いたりして密にならないようにする。 ・報告については掲示や朝の会、帰りの会などを活用し、長時間の発表にならないよう配慮する。
	〇きせつとあそぼうーふゆー	(4)(5)(6)(8)	8+α	8+α	・身近な冬の自然を観察したり、遊びや遊びに使うものをつくりだすことを通して、自然の様子や季節の変化、自然の不思議さや遊びの面白さに気付くとともに、楽しみながら遊んだり、遊びをつくりだしたり、自分の生活に取り入れることができる。	・話し合いは、体の方向を変えて伝え合う。 ・これまでの学習で蜜の環境にならないような習慣は身につけているが再度確認する。 ・模造紙や付箋などを活用し、個々で確認できるよう設定する。
	〇もうすぐ2年生(9)	(8)(9)	8	10	・1年間の自分自身の生活や成長を振り返る活動を通して、自分は多くの人々に支えられていることや自分でできるようになったことがあることなどに気付くとともに、自分の生活やこれまでの成長を支えてくれた人々への感謝の気持ちを持ち、これからの成長への願いと期待をもって生活しようとする。	・インタビューのしかたを学習するときは、距離や声の大きさなどを確認する。 ・友だちの成長みつけには付箋を活用し、接触を減らす。 ・状況を見て実施の可否を決める。 ・実施する場合は、少人数で距離をとる活動計画をおこなう。 ・話し合いは班机にせず体の向きだけをかけ、距離を保つ。 ・模造紙や付箋などを活用し、個々で確認できるよう設定する。

スタートカリキュラム、学校たんけんは、国語や図工、道徳など教科横断的に取り組むことで25時間程度想定して取り組むとよい。

80+α (予備時数10、4、5月で15時間を減じ、トータル90時間で想定)
94+α (予備時数8、合計102)